

## 震災復興に携わる 山王遺跡（宮城県多賀城市）、中沢遺跡（宮城県石巻市）

調査年：2012（平成24）年 中川 寧

私たち島根県埋蔵文化財調査センターの職員は、普段は県内の遺跡の調査に携わりますが、これまで島根県の外で調査に携わった例が二つあります。一つは阪神・淡路大震災の復興に伴う発掘踏査（平成8年：1996～平成9年：1997）で、もう一つは東日本大震災の復興に伴う発掘調査（平成24年：2012～平成26年：2014）です。私は平成24年10月から翌年3月まで、宮城県に派遣されて東日本大震災の復興に伴う発掘調査に携わりました。

宮城県ではその年の4月から9名、10月から私を含めて8名の職員が派遣され、あわせて15の都道府県・政令指定都市から19名の派遣職員が配置されました。派遣職員は復興のための高速道路や集団移転地の遺跡に配属され、宮城県内の様々な遺跡で調査を行いました。私は10月から11月は多賀城（たがじょう）市の山王（さんのう）遺跡、12月から翌年3月は石巻（いしのまき）市の中沢（なかざわ）遺跡で調査をしました。はじめは職員の間で仕事の進め方が異なることに戸惑うこともありましたが、派遣された職員は地元の自治体で15年、20年、さらにはそれ以上の経験を積んだベテランが多く、職員個々の調査経験を有効に生かしたこと、そして宮城県の職員と一緒に、どうすれば復興調査を早く有意義に進めることができるのか、といった強い情熱をシェアすることで対応できたように思います。私は他の調査員と一緒に、作業員に指示を出したり、図面を書いたり測量したり、写真を撮ったりするなど、これまでしてきた仕事をそのまますることができ、島根県での経験がとても役に立ちました。

石巻市の遺跡では、調査に従事するほとんどの作業員が仮設住宅に住み、約1時間かけて通う人もいました。作業員から「毎日仲間と一緒に仕事ができてうれしい」「土器がたくさん出て面白い」や「宮城県の職員はよく働く」などの声があることを聞き、たいへん勇気

づけられる気がしました。

3月には現地説明会を開催しました。宮城県内の市町における復興調査で初めての説明会、さらに牡鹿（おしか）半島で初めての現地説明会ということで大きく報道され、100人以上の方が来られました。

派遣期間は半年でしたが、当時も、そして今思い出しても、あっという間に過ぎ去ったように感じられた日々でした。「あなたがここでできることは何ですか?」「なぜ発掘調査をするのですか?」ということを厳しく問われた経験だったと思います。

東日本大震災の後も、熊本地震では他の自治体から熊本県内の自治体に文化財の職員が派遣されています。大規模な災害が頻発していますが、私達がふたたび「派遣元」となる可能性や私達の組織が「派遣先」になること、これは起きて欲しくはありませんが、「もしも」に備えた心の準備はしておきたいと考えています。

(島根県埋蔵文化財調査センター主幹)



宮城県石巻市中沢遺跡 縄文時代前期～中期(約 5,000～6,000 年前)の集落  
集団移転の対象地として、平成 24～25 年に発掘調査。現在は住宅地となっている。  
(写真:石巻市教育委員会所蔵)